

＊認知症に関する書籍をご紹介します＊

●『認知症－アルツハイマー病 血管性認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症－』杉山孝博／監修 主婦の友社／編、主婦の友社 2019.12、ISBN:978-4-07-439380-0

⇒長期地域医療に取り組んできた著者による、認知症への理解を深めるためのガイド。具体的な例をあげながら対応のコツを紹介。

●『認知症の人』への接し方のきほん－あなたの家族に最適な方法が見つかる!「場面別」かかわり方のポイント－』矢吹知之／著、翔泳社、2022.8、ISBN:978-4-7981-7616-1

⇒認知症の人への接し方は一人ひとり違います。本人と介護する人の心を楽しむ向き合い方や、その人に最適な方法が見つかる「場面別」かかわり方のポイントを紹介。頼れる相談先の見つけ方も掲載。

●『なぜ、認知症の人は家に帰りたがるのか－脳科学でわかる、ご本人の思いと接し方－』恩蔵絢子／著、永島徹／著、中央法規出版、2022.7、ISBN:978-4-8058-8741-7

⇒家族や介護者が「なぜ?」と思う認知症の人の行動を、34の事例で取り上げ、その理由を脳科学の視点から解説。

●『認知症で使えるサービスしくみお金のことがわかる本 改訂版』田中元／著、自由国民社、2021.10、ISBN:978-4-426-12719-0

⇒診断から診療、見守り、介護サービス、家族支援、お金と権利擁護まで、本人と家族を支える情報がわかります。2021年度介護保険改正に対応した改訂版。

●『認知症に備える－家族や自分が認知症になっても安心して暮らしていくために知っておきたい大切なこと－』中澤まゆみ／著、村山澄江／著、自由国民社、2021.9、ISBN:978-4-426-12704-6
⇒家族や自分が認知症になっても安心して暮らしていくために、元気なうちに知っておきたい介護とお金と法律について解説。成年後見制度や家族信託の利用方法も紹介。p221～223には、認知症になった本人が書いた本のブックリストも。

●『親の認知症に気づいたら読む本－離れて暮らしていても大丈夫－』杉山孝博／監修、主婦の友社／編、主婦の友社、2019.8、ISBN:978-4-07-439084-7

⇒親が認知症ではないかと思ったとき、子どもはどうすればいいのか? 親御さんははどんな気持ちなのでしょう? 親に受診してもらう上手な声がけや、認知症と診断されたときにすべきことなどを紹介。

●『認知症を堂々と生きる－終末期医療・介護の現場から－』宮本礼子／著、武田純子／著、中央公論新社、2018.5、ISBN:978-4-12-005080-0

⇒年をとると認知症になるのは当たり前。終末期医療・介護に携わる著者らが、認知症になっても自分の意志を貫いて生きて、穏やかに亡くなった人たちを紹介し、そのためには本人や周囲の人にどんなことが必要だったのかを伝えてくれる一冊。

●『ぼけますから、よろしくお願いします。ーおかえりお母さんー』信友直子／著、新潮社、2022.3、ISBN:978-4-10-352942-2

⇒同名でドキュメンタリー映画を監督・撮影した著者が、認知症になった87歳の実母や家事に挑む93歳の実父との関わりを、ユーモアを持ってつづります。

著名な人が自らの認知症体験を綴った本↓

○『ボクはやっと認知症のことがわかったー自らも認知症になった専門医が、日本人に伝えたい遺言ー』長谷川和夫／著、猪熊律子／著、KADOKAWA、2019.12、ISBN:978-4-04-604499-0

⇒これまで何千人もの患者を診てきた認知症の専門医が、自身が認知症になったとき何を思い、どう感じたのかを語っています。

○『認知症になった蛭子さんー介護する家族の心が楽になる本ー』蛭子能収／著、光文社、2021.5 ISBN:978-4-334-95241-9

最近予約が多くついている本↓

○『あなたはどこで死にたいですか？ー認知症でも自分らしく生きられる社会へー』小島美里／著、岩波書店、2022.7、ISBN:978-4-00-061550-1

○『医者 of 僕が認知症の母と過ごす23年間のこと』森田豊／著、自由国民社、2022.7、ISBN:978-4-426-12812-8

○『シンクロと自由（シリーズケアをひらく）』村瀬孝生／著、医学書院、2022.7、ISBN:978-4-260-05051-7

○『認知症世界の歩き方ー認知症のある人の頭の中をのぞいてみたら？ー』寛裕介／著、認知症未来共創ハブ／ほか監修、ライツ社、2021.9、ISBN:978-4-909044-32-7

上記はほんの一部です。図書館にはまだまだたくさんの認知症に関する書籍があります。お探しのときは、館内の資料検索機をご利用いただくか、カウンターの図書館員までお声がけください。

